

令和5年度 第80回冬休み良書推薦運動

読書感想文コンクール

【表彰式】

令和6年3月2日(土)
サンセール盛岡

主催 岩手県良書推進協議会
協賛 岩手県学校生活協同組合
後援 岩手県小学校長会

岩手県良書推進協議会
岩手県学校生活協同組合
岩手県小学校長会
岩手県学校図書館協議会
岩手県PTA連合会

目次

- 一 祝辞
- 二 入賞者名簿
- 三 入賞者作品
- 四 審査を終えて
- 五 応募者名簿

表彰式次第

- 一 開式のことば
- 二 主催者あいさつ
- 三 賞状並びに記念品授与
- 四 審査報告
- 五 来賓祝辞
- 六 作品朗読
宮古市立山口小学校 一年
堀内 琥 白
- 七 感想発表
花巻市立八幡小学校 三年
菅原 桜子
- 八 閉式のことば

審査員

大石 善弘 先生	近藤 澄江 先生	畠山 明美 先生	藤村 由美 先生	田代 五月 先生	大渕 奈実 先生	永井臣之介 先生	杉浦美香子 先生	谷藤 里佳 先生
----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------

可能性の宝物

岩手県小学校長会 会長 佐藤 淳

第80回冬休み良書推薦運動読書感想文コンクールに入賞されたみなさん、おめでとうございます。みなさんは、冬休みの期間に本を読み、読んだ思いを感想文に書き、見事、賞をとることができました。その本を読んでいる時、感想文を書いている時、みなさんは賞を取ることを考えていたでしょうか。おそらく、みなさんは、好きな本を読んで、感じたことや考えたことなどあふれてくる思いを文章にしたのではないのでしょうか。そのことが、とても貴重なことであると思います。

みなさんも知っている、岩手県出身のアメリカ大リーグで活躍する菊池雄星選手と大谷翔平選手も読書家で、そして書くことを大事にしていることで有名です。

菊池雄星選手は、学生時代から1日1ページ以上本を読み、感想などを書くことを日課にしていたそうです。そして、このことが、自分の考え方を深めていく上でとても大事だと話しています。

大谷翔平選手は、高校生の時、目標達成シートを作り、目標達成のための一つとして、「本を読む」ことをあげています。また、ふだんから、考えたことや思ったことを書くことを習慣にしているそうです。

このように、大リーグで活躍する菊池雄星選手と大谷翔平選手が、共通して読むこと書くことを大事にしていることは興味深いことです。おそらく、読んで書くことが、自分の考え方や行動に大きな影響を与え、夢を実現する力になっているのだと思います。

そう考えると、今回、入賞したみなさんも入賞しなかったみなさんも、本を読んで書くことに取組んだことはとても貴重なことです。それは、おそらく自分では気が付かない可能性の宝物を自分の中にしまいこんだようなものだと思います。いつの日か、その宝物は、みなさんの力となって発揮されることまちがいありません。これからも、ぜひ、本を読み、その思いを書いて、自分の中に可能性の宝物をふやしてください。

最後に、今回のコンクールの開催にあたり、企画運営いただきました岩手県良書推進協議会の関係の皆様にご心から感謝申し上げます。祝辞いたします。

令和5年度 第80回

冬休み良書推薦運動読書感想文コンクール

入賞者名簿

『は図書名

〈最優秀賞〉

けんかしてほしくない

『どんぐりとやまねこ』

宮古市立山口小学校

一年 堀内 琥白

おねえちゃんになるためには

『まこが、おねえちゃんになった日!』

盛岡市立山岸小学校

二年 及 川 陽 葵

『かわいい』のひみつ

『給食委員はアイドル』

花巻市立八幡小学校

三年 菅 原 桜 子

動物を飼うということ

『やんちゃ犬おおさわぎ!』

雫石町立七ツ森小学校

四年 村 上 紗 彩

『望まれない命』ってなに

『野良猫たちの命をつなぐ』

宮古市立田老第一小学校

五年 澤 口 紗 幸

自分にとって最善の利益

『ぼくが選ぶぼくのいる場所』

盛岡市立山岸小学校

六年 矢羽々 愛 星

〈岩手県小学校長会賞〉

やってみないとわからない

『おとな体験授業?』

花巻市立宮野目小学校

一年 米 澤 明 良

食べる≡体づくり≡心づくり

『給食委員はアイドル』

宮古市立山口小学校

四年 箱 石 好 南

ぼくの知らない二酸化炭素

『ぼくは地球を守りたい』

宮古市立田老第一小学校

六年 飯 塚 岳 海

〈岩手県学校図書館協議会長賞〉

きけん生ぶつがへんしん

『危険生物工事車両』

盛岡市立河北小学校

二年 三 田 地 蒼 梧

つぶやきって最高

『一年一組せんせいあのね』

奥州市立江刺ひがし小学校

三年 阿 部 奏 汰

もう一度

『アゲイン』

盛岡市立津志田小学校

五年 坂 崎 陽 香

〈岩手県PTA連合会長賞〉

ゆう気をもって

『しばいぬチャイロのおはなし ガオガオきょうりゅうのよる』

宮古市立山口小学校 一年 加藤 ここね

仕事に誇りをもつ

『給食委員はアイドル』

雫石町立七ツ森小学校 四年 上和野 桔 平

知識という武器

『ぼくは地球を守りたい』

宮古市立田老第一小学校 六年 伊東 光 輝

〈優秀賞〉

はくにもかかっていたすてきなまほう

『犬のまほうのはいしゃさん』

岩手大学教育学部附属小学校 一年 佐藤 静 哉

あきらめたら試合しゅうりよう

『おとな体験授業?』

盛岡市立向中野小学校 二年 菊池 大 杜

自分らしく

『どんなイチゴも、みんなかわいい』

花巻市立大迫小学校 三年 松坂 優 凜

一歩踏み出す勇氣

『どんなイチゴも、みんなかわいい』

盛岡市立仙北小学校 四年 宮城 理 愛

輝ける場所

『勇氣を出して、はじめの一歩』

盛岡市立高松小学校 五年 佐々木 真 幌

勇氣って

『勇氣を出して、はじめの一歩』

宮古市立田老第一小学校 六年 館崎 咲 来

〈入選〉

私がいじな人を見つけた日

『まこが、おねえちゃんになった日！』

盛岡市立本宮小学校

一年 秋 山 真来奈

三日のさいばんと一分半のさいばん

『どんぐりとやまねこ』

盛岡市立山王小学校

二年 吉 田 洸

ゆるされるいたずら

『じごく小学校』

北上市立黒沢尻東小学校

三年 青 木 創志朗

盲導犬の気持ち

『カンタの決心 ぼく盲導犬になる』

雫石町立七ツ森小学校

四年 桐 山 芙 久

努力と挑戦

『アタックライン』

盛岡市立城南小学校

五年 桐 田 景 護

チームワークの正体とは

『アタックライン』

宮古市立田老第一小学校 六年 前 川 心 春

〈学校賞〉

宮古市立田老第一小学校

〈学級賞〉

雫石町立七ツ森小学校

4 年

宮古市立田老第一小学校

6 年

〈佳作〉

どんぐりと山猫

『どんぐりとやまねこ』

盛岡市立河北小学校

一年 中澤 昂 星

犬のふしぎはっ見

『犬のまほうのはいしやさん』

盛岡市立山岸小学校

二年 矢羽々 幸 星

大切な命

『ほたるとワタルの物語』

雫石町立七ツ森小学校

四年 村 山 音 羽

応えんするよ！カンタの決心

『カンタの決心はく盲導犬になる』

一戸町立奥中山小学校

四年 猪 又 結 月

アタックライン

『アタックライン』

滝沢市立滝沢小学校

五年 高 橋 紗 彩

私も地球を守りたい

『ぼくは地球を守りたい』

北上市立二子小学校

六年 高 橋 明 莉

一年 最優秀賞

けんかしてほしくない

宮古市立山口小学校 一年

ほりうち こはく

この本をよんで、ここにのこったのは、木やたきやきのこたが、いちろうをみちあんないしてくれたことです。いちろうがやさしいから、いろんなものたちから、すかれるのかなとおもいました。

山ねこにしようたいされたのも、いちろうがやさしいからかもしれません。

どんぐりたちが、だれがえらいかでけんかになってしまい、なかなかおりさせようとした山ねこがこまって、いちろうに手ごみを出しました。

ほくも山ねことおなじで、はやくなかなかおりしてほしいなとおもいました。けど、大きいどんぐりがえらいとか、まるいどんぐりがえらいとか、みんなすきなことをいって、けんかになっているのが、ちよつとおもしろかったです。ほくは、大きいのがえらいとおもわれないし、まるいのがえらいとおもいません。もつと大きいのもいるだろうし、だれが小さいかもわかりません。だから、けんかをやめよう、といいたいです。

かしこいことをいって、けんかをやめさせたいいちろうは、

えらいとおもいます。

ほくもけんかをすることがあります。ブロックをなげていたともだちに、

「だめ。」

といったら、けんかになってしまいました。「だめ」っていつてほしくなかったのかなとおもいました。「やめるんだよ」とやさしくいえばよかったかな。ほくは、いちろうにたすけてもらわなくても、なかなかおりできました。なんでけんかになったのか、かんがえたから、これからは、けんかもなくなるとおもいます。

どんぐりたちも、なかなかおりできているといいです。いちろうがいなくても、けんかにならないように、かんがえてみたらどうかな。

(図書名『どんぐりとやまねこ』)

〈講評〉

きょうどのさつか、みやざわけんじのおはなし。こはくさんが一ばんに気がついたのは、こまった山ねこから手がみをもらったいちろうのやさしさでした。どんぐりたちのけんかにこまった山ねこは、やさしいいちろうにたすけをもとめたのでしょうか。それを見ぬいたこはくさんは、さすがです。

どんぐりたちのけんかをおもしろがりながらも、じぶんのことでしてかんがえ、けんかしないほうをかんがえてみたらどうかという思いで文をまとめたところがすてきでした。

二年 最優秀賞

おねえちゃんになるためには

盛岡市立山岸小学校 二年

及川 ひまり

わたしにはおねえちゃんがあります。でも、妹はいません。だから、わたしはおねえちゃんになれません。でも、「おねえちゃん」にあこがれています。おねえちゃんになるって、どんなかんじなのかと思ったのでこの本をえらびました。

まこちゃんはおねえちゃんになるのが楽しみでした。だけど、じつさいに赤ちゃんが生まれそうになった時、ドキドキ、しんぱいになってしまいました。ねむくなつてねてしまった時、ゆめを見ました。それは、大じなぬいぐるみのリリと、赤ちゃんといっしょに、お母さんをさがすゆめでした。ゆうきを出して、くらやみの中のすべり台をすべりました。

わたしのおねえちゃんに、聞いてみました。わたしが生まれた時は、うれしい気もちと、ふあんな気もちが半分だったそうです。おねえちゃんはどうなことをすればいいかな、妹の言うことをぜんぶ聞かないといけないのかも、おねえちゃんができるのかな、お母さんがとられちゃうのかも、といういろいろな気もちになったそうです。でも生まれて、

いっしょにあそんでいる時、「妹ってこんなにかわいいんだ」と思えるようになったそうです。この本を読んでいるうちに、わたしがお母さんのおなかにいる時、おなかをなでくれたような、名前をよんでくれていたような気がしてきました。わたしにとって、おねえちゃんは、時どきけんかしてしまふけれど、いつもあそんでくれるし、まもつてくれるから、大切な人です。おねえちゃんがおねえちゃんになった時の話を聞いて、「わたしのおねえちゃんになつてくれてありがとう」と思いました。わたしは、おねえちゃんが大すきです。

今、わたしは地いきの一年生と、いっしょにとう校しています。本当のおねえちゃんではないけれど、まこちゃんのように強くてやさしいおねえさんになれるようにがんばります。 (図書名『まこが、おねえちゃんになった日』)

〈講評〉

おなじ本をよんだ人たちがおねえちゃんだったけれど、ひまりさんはおねえちゃんにあこがれるいもうととして、この本をえらんだのがおもしろいと思いました。人とちがうところが見えてくるからです。

ひまりさんが生まれてきたときの気持ちを、おねえちゃんにきいて、おねえちゃんになつてくれてありがとうと思つたこと、本当のおねえちゃんではなくても、地いきの一年生のお手本になれるようなおねえさんになりたいという気持ちがいっしょに書けています。

三年 最優秀賞

「かわいい」のひみつ

花巻市立八幡小学校 三年

菅原 桜子

私がこの本を読んだきっかけは、「給食委員はアイドル」という題名が気になったからです。読む前は、アイドルの仕事が大好きで、給食委員にはきょうみがないのかな、と思っていましたが、じつさいは、モデルの仕事も好きだけれど、それ以上に給食が好きな主人公のルミが給食委員になって、給食の大切さと「かわいい」のひみつをみんなにとどけるお話でした。

このお話と私の学校では、給食のシステムがちがいました。私の学校では、給食センターで作った給食が運ばれて学校に来るけど、このお話では、給食が学校で作られていました。私もルミと少しいっしょで、もし、学校で給食を作っているのなら、3時間目が終わった後、ダッシュで教室を出て、見に行ってみたいです。

それに、ルミたちが通う青空小学校には名物メニューがあり、たこやきフライがその中の一つです。私の学校には、名物メニューはありませんが、「○○こんだて」という物があります。たとえば、この前のクリスマスにはツリー形のハンバーグと、プチチョコケーキができました。このように、イベントにあわせて給食が出るので、その日に学校に行くのが楽しみになります。

また、お話に出てきた、てんこう生のカオルちゃんは、私といていると思いました。カオルちゃんはルミと同じモデルで、去年までナンバーワンの人気でしたが、ルミにぬかれ、ルミの「かわいい」のひみつを知るためにやってきました。そのカオルちゃんがいていると思った理由は、ご飯を食べすぎると太って、かわいくなる

とかんちがいしていた所です。私は二年生の時に、カオルちゃんと同じように、食べると太ってかわいくなるとかんちがいをしていました。

でも、カオルちゃんは、ルミのおかげで、かわいくなれる本当のひみつをいって、ごはんを気にせず食べられるようになりました。カオルちゃんはこれからは、たくさんえいようをとって、おわらいコンビとして、カオルちゃんらしく成長していけると思います。

私も、この本を読んで、ルミのおかげで給食の大切さをあらためて知りました。食事は、自分たちが、成長したり、べん強したりするためのエネルギーになってくれる事が分かりました。また、食事をとらないとカオルちゃんのようにやつれて、元気をなくしてしまいます。

本当の「かわいい」は、美人などの顔ではなく、えいようをしつかりとって、元気に遊んで、わらっている人だと思います。これからは、ルミみたいに「よく食べ、よくねて、よく出し、よくわらうこと」を毎日つづけてかわいくなりたと思います。

(図書名「給食委員はアイドル」)

〈講評〉

桜子さんは、学校で当たり前のようにいたっている給食の意味を深く考えるために、よい読み方をしていきます。それは、お話の給食と自分の学校の給食を比べたり、登場人物を自分と比べてたりして読んでいくことです。そして、給食の大切さや本当の「かわいい」の意味をとらえることができました。「かわいい」は外側ではなく、内側から元気で笑顔があふれることなのです。大切なことを学んだ素敵な本との出会いでした。

四年 最優秀賞

動物を飼うということ

磐石町立七ツ森小学校 四年

村上 紗彩

私は、動物を飼ったことはありません。家の人にも飼いたいなどお願いしたことは何度もありますが、なかなか実現できませんでした。だから、この本の題名にある「動物あずかりや」という言葉を見つけて、わくわくしました。私も一緒に「動物を飼う」という気持ちになれるのではと思ったからです。

主人公のカイタは、動物が大好きな八歳の女の子。カイタの家族は、しあわせしつぽの会から、犬のオリーを引き取りました。オリーは、ひとりぼっちで駐車場にいたそうです。私はおどろきました。こんなかわいい犬を捨ててしまう人がいるなんて。動物は、みんな飼い主達に、大切にされていると思っていました。何か事情があった、動物を手放したのかもしれない。でも、とても悲しいなと思いました。だから、動物を保護して、一生の家を探す活動をしている人がいることを知り、少しほっとしました。

カイタの家族は、「動物あずかりや」として、また、保護された動物をしばらくお世話することになりました。やってきたのは、犬のトルーマンです。そのやんちゃぶりは、私の四歳の弟のようです。トルーマンは、カイタの部屋で寝ていると思っていたら、いろいろな物をたおしたり、かんだりしていました。

私だったら、そんないたずらをされたら、おこってしまいうけど、カイタはおこりませんでした。おこらないだけでなく、「今日のこととは、本当に良い勉強になった。」と心から思っていました。カイタは、トルーマンが悪いと決めつけるのではなく、「あずかっ

る犬は、絶対に一匹で部屋においていたらだめ！」と自分の行動を反省していたのです。私だったら、弟にいたずらされたら、弟を責めておこってしまうかもしれません。

動物をあずかる大変さを味わっていたのはカイタだけではありませんでした。ママの布バックがずたずたになったり、パパのくつはかみあとだらけだったり。でも、家族でたくさんさんの失敗の経験しながら、いろいろなことを学んでいきました。そして、みんなとても楽しそうところが、すてきだと思ったし、私も一緒に犬を飼っている気持ちになりました。大変なこともたくさんあるけど、大変なことを大変で終わらせないで、一緒に学んでいけばいいのだと思いました。

トルーマンは、新しい家族が見つかりました。カイタは、とても悲しそうです。私もカイタと同じように、胸がきゅうと痛くなりました。毎日一緒に過ごしてきたのに、別れてしまうのはとてもつらいです。でも、新しい家族になっていったトルーマンを見て、カイタもうれしいと考えを変えたところが感動しました。カイタは、動物の気持ちを一番に考え、大切にしているのです。私も、これからカイタのように、相手の気持ちを大切に作る気持ちを忘れずに生活したいと思います。

(図書名『やんちゃ犬おおさわぎ!』)

〈講評〉

「動物あずかりや」の家族の考え方を自分と比べながら丁寧に読むことができました。そうすることで、動物を飼う経験がなくても、しっかりと話の世界に入って理解することができたのですね。「大変なことを大変で終わらせないで、一緒に学んでいけばいいのだと思いました。」という感想には、本を読んで成長した紗彩さんの考えが表れていて感心しました。人物から学んだ優しさは、きつと紗彩さんの周りの人に向けられることでしょう。

「望まれない命」 つてなに

宮古市立田老第一小学校 五年

澤 口 紗 幸

私は猫を二匹飼っています。二匹とも、元野良猫から生まれた猫でした。本の題名にある「野良猫」と重なり、興味をひかれ、読み始めました。主人公は、動物の命を守るために働き続けている、獣医のモコ先生です。モコ先生は、全ての「命」を守る強い決意をもつ獣医です。

モコ先生の決意は、野良猫への手術料金から伝わりました。モコ先生は料金を格安にすることで、多くの猫の手術ができるようになっています。目の前の命だけでなく、この先の命を守るための努力です。また、麻酔の量も少なく、猫への負担がかからないようにしています。猫の命を第一に考えているモコ先生のおかげで、多くの命が救われ、この先の運命が変わっていくはずで、できるだけ多くの命を守りたいという決意、そして、利益を求めず働き続けている姿を尊敬します。

私はこの本を読み進めていくうちに、ある言葉に引っかかり、その言葉は今も私の心に残っています。

それは「望まれない命」という言葉です。この言葉は子猫のことを表していますが、今の社会から、猫たちへ送られている冷たい視線そのものではないかと、私は感じます。

私は野良猫を見ると、「かわいい」「守ってあげたい」という思いがあふれてきます。でも、真逆の人にもいるのではないでしょう。臭いやフンや尿をする「いらぬ」存在、鳴き声がうるさく「迷惑」な存在など、野良猫を嫌がる人もいます。とても残念です。

でも、野良猫が起す問題は様々あり、野良猫が増え続けると、人間社会にも悪影響が出るのも事実です。このように、好きか嫌いかわけで考えていては、命を守られません。好きでも嫌いでも、できることはあります。

私は猫を飼うと決まった時、とても嬉しく、夢みたいな気分でした。猫との生活が始まり、おもちゃで遊んだり、性格の違いに気づいたりして、二匹のことがますます好きになりました。それと同時に、トイレ掃除が面倒くさくなり、お世話する時間が確保できなかったり、思い通りにならないことも増えました。

本を読み終えた今、命を大切にすることは、好き嫌い関係なく、その全てと向き合わなければならないという現実です。きつとモコ先生も様々な感情の中で、命と真つすぐ向き合い続けているのだからと思ひ、改めて命を守る責任の重さを知りました。

私は「望まれない命」なんてないと思ひます。うちへやってきた二匹も、きつと母猫が命をかけて産んだ「望まれた命」です。私は、「どんなに小さいことでも、命を守るためにみんなのできることをやろう」という願ひをモコ先生から受け取りました。全ての命が望まれた命として守られていくにはどうしたらよいか、私は考え続けます。そして、大切な二つの命と、真つすぐに向き合い続けます。

（図書名『野良猫たちの命をつなぐ獣医モコ先生の決意』）

〈講 評〉

猫を飼っている紗幸さん。猫たちと生活することは、とても楽しく幸せな時間ですね。しかし一方で、猫を飼う前には想像もしなかった大変なこともたくさんあったことでしょう。

それは、猫にも「命」があるからです。どんな時でも「命」と向き合っていくこと。この本を通して、紗幸さんは改めて、命の大切さを考えることができました。これから紗幸さんと猫たちと過ごす時間は、ますます有意義なものになっていくことでしょう。

六年 最優秀賞

自分にとつての最善の利益

盛岡市立山岸小学校 六年

矢羽々 愛 星

吉富多美さんの本は自分の心がちょっと乱れていてそれをリセットするために選ぶ事が多いです。私はまだまだ経験も知識も少なく人の力や本の中から情報や知識を得る事がほとんどです。悲しい事や辛い事があった時、自分の事しか考えられず、自分が一番不幸だと思いがちですが、本を読む事で自分自身を見つめ直す事ができます。

「ぼくが選ぶ ぼくのいる場所」は、社会問題にもなっているヤングケアラー、ぎゃくたいのお話でした。主人公の五年生のつむぎは、父親を三年生の時に亡くしました。それからずっと精神的に不安定でアルコール依存症の母親と生活しています。精神的に不安定な母親を支えつつも、母親の言動に深く傷付き、ほんろうされ、周囲のサポートからも引き離されていきます。そして母親が選んだ男の人は、母親とつむぎを暴力で傷付けるモンスターでした。空手の先生から習う呼吸法で、良い言葉と悪い言葉の取り扱い方を学び、また理解ある学校の先生や友人との交流、祖父の古くからの親友の藤木さんとの学習や本との出会いなどを通じて、母親を守りたい気持ちの中に封じ込められた自分の本当の気持ちにも気付いていきます。世の中にはつむぎのような子がたくさんいるんだろうなと私は思います。おかれている環境や状況、悩みなど数えきれないほどある中で、私が悲しみ、辛く悩んでいる事がとつてもちっぽけな事のように思えてきます。生きていれば楽しい事も悲しい事もたくさんあります。つむぎのように逆境を生きるための強さに変えるためには、周りのサポートや人との出会い、本との出会いが大切なんだと

思いました。

私はこの本を読んで、言葉一つで気持ちが良くも悪くも動く事がわかりました。つむぎが転校してきた時に担任の信二先生が「ぼくが松森さんを守ろう」と言ってくれた事、祖父や祖母が、つむぎのために泣いてくれた事、おばが見守ってくれていて、「がんばったね」とほめてくれた事、祖父の親友の藤木さんが逃げこむ居場所を本の中に探し出してくれた事、この本の中にはつむぎだけではなく私も勇気や元気をくれるキラキラな言葉がたくさん書かれています。みんながみんな、つむぎのようにはうまくいかないのかもしれないけれど、必ず味方はいるというメッセージが読み取れました。

この本は子供だけではなく、ぜひ大人の皆さんにも読んでほしいです。つむぎのように病気の家族を支えながら生きている子、大人の感情による暴力、周りの大人たちが見て見ぬふりをするのではなく聞いてあげたり声をかけてあげたりしてほしいです。その中で子供たちは自分の気持ちや考えを大切にする事が、「自分にとつての最善の利益」と気付いていけるんだと思います。生きている以上、悩みは尽きないけれど、その都度きちんと自分の心と向き合っていきたいです。

（図書名『ぼくが選ぶぼくのいる場所』）

〈講評〉

主人公の置かれた境遇や気持ちに寄り添いながら読み進め、感じたことを自分の言葉で表現できています。この本を読むことで、愛星さんの気持ちがすっきりして、前に進むことができていくことが伝わってきました。

また愛星さんは、知識などを得たり、自分の気持ちを整理したりするために、日頃から本を手取る習慣がついていることが、大変素晴らしいですね。これからのつむぎさんの素敵な本と出合っしてほしいです。

岩手県小学校長会賞（低学年）

やってみないと、わからない

花巻市立宮野目小学校 一年

米ざわ あきら

ぼくは、おとなになりたい。だって、だれかにきよかとらなくても、すきなところに行ったり、すきなものをすきなだけかつたりできるから。おとな体けんじゆぎょう？なんかおもしろそうだな、とおもって、この本をよみはじめました。

あすか、りゅうじ、さき、ゆり、こうたのグループは、どんなおとなになりたいかをかいて、えき体に入れると、ごちゃまぜになってしまいました。マンガかになりたいあすかは、りゅうじのなりたいたいラーメンやに。りゅうじは、びようし。みんな、じぶんがかいたなりたいたいおとなとはちがつていました。

ぼくは、せっかくおとなになれたのに、すきなしごとがでなくて、みんなかわいそうだなとおもいました。でも、みんな、さいしよはわけがわからなかったり、じしんがなかったりでこまっていたけど、だれかにほめられたり、たよりにされたりして、みんなうれしそうにかわっていったから、ぼくもうれしくなりました。

この本をよんで、ぼくは、おとなにはたいへんなことも

あるとしました。たくさんおほえることがあるし、いそがしいとごはんをたべそこねることもある。じぶんがしごとをしないとたくさんの人にめいわくがかかる。いまのぼくにはできそうにありません。すこししんぱいになりました。

もしかしたら、これからぼくもやりたいことができないことがあるかもしれません。いままでは、やりたくないとおもって、なかなかやる気が出ませんでした。でも、この本をよんで、みんなのように、やりたいこととちがつていても、「うれしいな」「たのしいな」とおもうことができれば、どんなことでもやる気があります。ぼくは、じぶんのにが手なこともやってみて、「うれしいな」「たのしいな」をたくさん見つけたいです。

（図書名『おとな体験授業？』）

〈講評〉

だいいめがおもしろそうだからとよみはじめた本は、あきらさんにとつて本とうにおもしろかったようです。

この本と出あつて、すきなことばかりできていいなおもつていたおとなにも、たいへんなことはたくさんあるということに気がついたあきらさん、おとなになるまでに、にが手をのりこえて「うれしいな」「たのしいな」がたくさん見つけられますように。

岩手県小学校校長会賞（中学年）

食べる＝体づくり＝心づくり

宮古市立山口小学校 四年

箱石 好南

すごい、本当にルミちゃんはすごい。何がすごいって、小学生モデルとして活やくしていて、モデル人気投票じゃナンバーワンになるほどの人だから。それだけじゃなく、給食委員長としての仕事をバリバリこなしている。特にわたしがおどろいたのは、給食キャンペーンでのアイディア。おのこしゼロシールぐらいならわたしも思いつきそうだけど、お昼の放送大作戦はびっくりしない人なんていないんじゃないかってぐらいすごい。クラスの友達と協力して、その日のメニューのおいしさや栄養ポイントを紹介したり、給食のすばらしさについて語ったり。わたしが何よりすきだなと思ったのは、ピョンタと一緒に話しながら楽しそうに食事することを放送したところ。食事って、やっぱり誰かと一緒にする方がずっとずっと美味しいって感じるし、より楽しい時間になる。その人とのつながりも深いものにできてると思う。そんな楽しさを全校に知らせたんだから、そりゃあ学校中のみんながおかわりしたくなるのは当然だと思う。そんな色々なアイディアが出てくるのはしっかり食べているからこそ、頭の回転も良くなってる結果だとわたしは思った。

一方のカオルちゃん。初めはルミちゃんに近づきたい一心で転校して来ただろうけど、給食どころかふだんの食事もほとんどしていないみたいだった。その結果はカオルちゃんの心まで支配しているように思う。なぜなら、わたしはお腹がすいてるとき、誰かのちよっとした言葉にイラッときてしまう時があるからだ。きつとカオルちゃんはモデルの仕事のためとはいえ、あまり食べていないからい

つもお腹がすいている状態だったように思う。だからあまつたるい声で話していてもわずかな心のグラつきをカバーできなくて、つい本性と本音が表に出てしまっているんだと思う。食事をきちんととらないでいると、体がやせていくだけでなく、心までやせていきギスギスしたものになってしまうことをカオルちゃんがわたしに教えてくれたように思う。

いつか栄養教諭の先生が話していた言葉がわたしの中の心にひびく。

「メニューを考えると、わたしの頭には三つの「C」があります。一つは美味しい、二つ目はうれしい、三つ目は楽しいです。」

と言っていた。わたしは毎日の給食でその全部をいただいている。給食は大好きだし、クラスの友達との食事はとても楽しい時間だ。おかげでわたしはしっかり勉強や運動ができる。友達とも仲良く遊べる。給食にこめられた三つの「C」は、わたしの体の中で消化されて「頭や体がたくましい」や「心がやさしい」に変換している。わたしもルミちゃんのようにすてきな人になるために、給食や家での食事を、これからもしっかりとっていききたい。もちろん、作ってくれた人への感謝の心を「いただきます」に込めるのも忘れずに。

（図書名『給食委員はアイドル』）

〈講評〉

登場人物の「ルミ」と「カオル」を対比する文章構成の仕方が見事です。ルミの給食委員長としての活躍の様子や食事への考え方と、あまり食べていないカオルが心まで支配されている様子を比べることで、好南さんが本を読んで感じたことが明確になっています。

また、栄養教諭の先生が話してくれた言葉を用いながら食事に対する考えをしつかりまとめ、題名ともつながっています。これからずっと大切にしていきたい考えですね。

ぼくの知らない二酸化炭素

宮古市立田老第一小学校 六年

飯塚 岳海

ぼく達は六年生になって理科で酸素や二酸化炭素について勉強した。物が燃えると酸素が使われ二酸化炭素が出る事や、生物が呼吸すると酸素が体に取り入れられ二酸化炭素が吐き出される事、空気中には酸素や二酸化炭素が含まれている事も知った。一方、ニュース報道などで地球温暖化の原因として挙げられているのが二酸化炭素だ。この気体、空気中には一パーセントどころか、ものすごく微量しか含まれていないらしい。そんなちよつぱりしかないなら、ぼくらの活動で少々増えたところで大丈夫なのではと思ってしまいが実際のところはどうか。

今年の夏を振り返ってみると、本当に辛いと思えるほどの暑い日が多かった。特に、ぼくはサッカーチームに所属しているので、週末の練習のたびに熱中症のような症状に悩まされた。テレビの報道でも「地球温暖化ではなく沸騰化だ」という専門家の意見も発表されていた。いつか見た新聞記事で「二一〇年には火星移住が始まるかもしれない」というのを読んだことがある。もちろん、地球温暖化が原因での移住という内容だった。本当にそうになったら、その時ぼくは八〇代のおじいちゃんになっている。そう考えると、それほど遠い未来でもない気がして心配になった。

そんなぼくに「大丈夫だよ。ぼくが二酸化炭素の研究所を作ったからね。」と、表紙の村木さんが笑顔で話しかけてきた。村木さんは空気中の二酸化炭素を集める機械を作ったというのだ。しかも、高校生のときに既に一号機を完成させていたというから驚きだ。そ

して村木さんの現在の研究は、二酸化炭素回収マシンの小型化と二酸化炭素を使つての燃料作り、そして火星移住計画なのだそう。二酸化炭素を無くすという発想はぼくも考え付きそうだが、それを原料として何かを作ってしまうのか、生活できるまでにしたいという考えは、なぜ出てきたのだろうか。

それは、村木さんが単なる勉強だけをしてきたからではないことに答えがあるだろう。秘密基地を作り、自分の部屋での実験、科学館通い、読書等々、どれをとつてもとことんまでやり遂げる。常により良くするための試行と思考を止めることがない。また、試行途中で必要だと思つたものは、全て取り入れてみることも欠かさない。周囲に「無理だ」と言われても、むしろ心のエンジンにターボをかけ、加速させているように見える。

村木さんは言う。どうせ無理だという気持ちにおおいかくされるなど。そうならないために、これからぼくは自分の目の前のことは全て全力でやっていきたいと思つた。勉強はもちろん、サッカーチームでの練習や試合、友達と遊ぶこともぬかりなくやっていきたい。いや、やらなければと思つた。同時に、未来の自分の家族が火星移住とならないような生活様式も日々、積み重ねていきたい。

（図書名『ぼくは地球を守りたい』）

〈講評〉

学校の理科の学習での気づき。そしてニュースや新聞記事の内容も列挙して挙げた令和五年の異常なほど暑い夏。日常生活での様々な経験から、この本を手につけた岳海さんの気持ちや発見、驚きがよく表現されている感想文です。

筆者の考え方や思いに共感した岳海さん。結びには、これからの日常生活への意欲や決意が書かれています。岳海さんの今後の学校生活に多くのことを生かしていけそうですね。

きけん生ぶつがへんしん

盛岡市立河北小学校 二年

三田地 そうご

学校でもらった読書かんそう文リストに、きけん生ぶつ
工じ車りようがありました。ぼくはきけん生ぶつも工じ車
りようも大すきです。ふだんはこわがられているきけん生
ぶつが工じ車りようになっているなんて、どんなおはなし
だろうと読みたくなりました。

本を読んでみると、たくさんきけん生ぶつたちが一生
けんめいにはたらいていました。工じの途中で、オオムカ
デしんどうローラーがけんかをしていたり、イリエワニと
ナイルワニのコンクリートミキサー車がコンクリートをま
きちらしているところへアジアゾウコンクリートポンプ車
とバイソンロードローラーがとっしんしたりしてしまし
た。本当の工じ車りようならぜったいにけんかなんてしな
いのでおもしろくてわらってしまいました。この本の中で
ぼくが一番すきな車りようは、スベスベマンジュウガニコ
ンテナうんばん車です。丸くて力もちでずつと見ていると、
本当のコンテナうんばん車に見えてきました。

きけん生ぶつたちが作っていたのは楽しいゆうえん地で
した。

「きけんな生きもののなにこんなにきれいなものをつくれ
るなんておどろいたよ。」とあつたけれど、ぼくもまさか
ゆうえん地を作っているなんて思いませんでした。三人の
男の子たちが話していた、

「おたがいのことをよく知って、つきあえるようになる
といいね。」ということばのように人間がかつてにきけんだ
とかこわい、あぶないときめつけずに、ほかの生きもの
のこともよくわかりすればどちらもくらしやすくなるのか
なと思いました。この本を読んで本もののきけん生ぶつも工
じ車りようもつと知りたくなりました。それから、ぼく
が考えたきけん生ぶつ工じ車りようも作ってみようと思
いました。

（図書名『危険生物工事車両』）

〈講評〉

おはなしというより、図かんのようなこの本を楽しく読んだ
が、文章から伝わってきた、うれしかったです。そうさんの書い
ているとおり、「きけん」ということばがつくと、わる者のよう
なかんじがしますが、工じ車りようどうしがいっしょうけんめいはた
らいたり、時には、けんかをして作っていたのは、まさかの
楽しいゆうえん地。こわい。あぶないと決めつけずに、りかいしあ
つてくらしやすくなるとすてきですね。

そうさんの作る「きけん生ぶつ工じ車りよう」は、どんなもの
なのか、気になります。

岩手県学校図書館協議会長賞（中学年）

つばやきつて最高

奥州市立江刺ひがし小学校 三年

阿部 奏汰

「あつヨシタケシンスケさんの絵だ。読んでみたいな。」
これがこの本を読んでみたいと思ったきっかけです。ヨシタケシンスケの絵はおもしろそうで、一年生の言葉はどんなものがのっているのだろうと気になりました。

この本は、神戸市小学校の教員としてきんむしていた鹿島和夫さんが一年生をたんにんしていた時の日記ノート「あのね帳」からえらばれた子どもたちのつばやきがのっています。全部で五十四人分のユーモアあふれるつばやきのついでいます。

ぼくがこの本を読んで、いんしょうにのこったつばやきは全部で三つあります。

一つ目は、「せんせい」というつばやきです。つばやきの中に「せんせいとはつばうを十かいさせます」という言葉があります。なぜ、子どもだけに十回も鉄ぼうをさせるのがふしぎに思いました。ぼくは三年生なので三人のたんにんの先生と出会ってきました。どの先生も何かする時は、お手本を見せてくれました。だから、もし子どもだけにまかせていたら、子どもだけ努力しているのに先生は何もしないなんてずるいと思います。

二つ目は、「おふろ」というつばやきです。お風呂の中で弟がおしっこをしてみたい、その中でお父さんが顔をあらってしまおうというつばやきです。ぼくには、去年八月に生まれた妹がいます。お風呂に入った時に妹もおしっこをしているのかもしれない。ぼくは、時々妹が入った後のお風呂でもぐって遊んでいるので、つばやきに出て

くるお父さんと同じじょうきょうです。

三つ目は、「うそ」というつばやきです。お母さんにうそをつき泣かせてしまおうという内ようです。ぼくもうそをついたことがあります。どんなうそかは言えませんが、つばやきを書いた子と同じ気持ちになりました。人をきずつけるし、相手も自分もいやな気持ちになってしまおうので、ぜったいにうそはいけないと思いました。

どのつばやきもとてもおもしろくて、声が出るほど笑って読みました。鹿島先生がえらんだつばやき：鹿島先生も子どものころ、同じように感じていたのかな。

ぼくは二学期に、学級委員長をしていました。長なわとび練習で人数が集まらず、

「これからどうしようかな。」

とつばやきました。それをたんにんの先生が聞いていて、

「みんなで話し合ってみたら。」

とアドバイスしてくれました。話し合いをすることができて、ク拉斯の気持ちとままりました。そして練習をがんばった結果、最高記録の回数をとぶことができました。ぼくは体調をくずして休んでいたのに、目の前で見ることができずさんねんでした。つばやきって悪くないね。つばやきつて最高。

（図書名「二年一組せんせいあのね こどものつばやきセレクション」）

〈講評〉

奏汰さんが笑いながら読んでいる様子が見えるようです。五十四ものつばやきから三つに選ばれた感想で、それぞれに自分の体験が書かれています。自分自身のことを思いうかべながら心を働かせて読んだことが伝わってきます。一年生のつばやきも奏汰さんのつばやきも感じたことを素直に表現するということでは一緒ですね。奏汰さんの経験の結末も楽しいものでした。読書の楽しさが伝わってくる感想文です。

もう一度

盛岡市立津志田小学校 五年

坂崎 陽香

この物語は、主人公のアオイが、同級生のカンナと、子ども食堂やボランティア活動を通して、友達や社会の新しい一面を知っている物語です。アオイは、友達から言われた、「いつも人任せにしている」という、たった一言で落ち込んでいました。私はそんなことはあまりありませんが、アオイの気持ちはわかります。そして、クラスメイトのカンナは、家の事情で食事が用意できず、子ども食堂を使っています。

この物語を読むうちに、心に残った所があります。まず、カンナとアオイが初めて子ども食堂に行くところです。子ども食堂とは、家族が忙しいときや、ご飯を作れないときなどに子どもが一人でも入れて、無料か安い金額でご飯が食べられる施設です。とほとぼ歩いていたアオイは、掲示板を見るカンナを見かけます。そのままカンナについて行ってみると、そこは子ども食堂でした。アオイも私と同じように子ども食堂に来たことがなく、お金も無いし、入っていいのか心配で、どうすればいいのか分からなくなっていました。私も、基本的には家族が作ったものしか食べないので、初めならこのようにあわててしまうと思います。でも、子ども食堂を使いなれているカンナは、

「あのおう、これ半分持つて帰ってもいいですか。お母さんも今日はご飯がないんです。」

とテイクアウトまでたのんでいました。私は、行動力がすごいと思いました。もし自分だったら、はずかしくて何も言えないと思いま

す。そして、世の中にはカンナのようにギリギリの状態の人もあるのだな、と思いました。

もう一つは、カンナが引越した後にアオイがボランティア活動を始めたところです。アオイは、カンナが引越した後も、ずっと子ども食堂のことが心に残っていたのだと思います。アオイは自主的にボランティア活動をするために、フードバンクアゲインという、中身は問題ないのに捨てられる食べ物の倉庫に行きました。するとそこで子ども食堂によく来ている、リュウヘイ君に会います。リュウヘイ君というのは、ボーイズグループのオーディションの合格を目指している子です。リュウヘイ君と手伝いをしていると、カンナからの手紙を見つけました。その内容は「そちらにいるころはよく支援してくれてありがとうございます。」というものでした。私は、感謝の気持ちを忘れないカンナはえらいし、大人だなと思いました。

この本を読んで、改めて子ども食堂は、誰かの役に立ついい取り組みだなと気がつきました。でも、もしかしたらいろいろなボランティア活動がほかにもあるかもしれません。できるなら、協力してみたいと思います。そのために、世の中の状況をもっとよく知るために調べる必要があると強く感じました。

（図書名『アゲイン』）

〈講評〉

登場人物の行動力に感心し、共感しながら読み進めていった陽香さんの素直な気持ちが、文章全体に表れていました。

子ども食堂の活動の素晴らしさを知った陽香さんは、これから様々なボランティア活動に協力してみたいという思いを持つことができました。その気持ちは、ボランティア活動への第一歩です。この本を通じて、陽香さんのような思いをもってくれる人が増えると嬉しいです。

ゆう気をもつて

宮古市立山口小学校 一年

かとう ここね

「ウ、ウオオオオーン。」

「オーン、オーン……。」

しばいぬのチャイロが、ほえるところが一ばん、おもしろかったです。どうしてかという、チャイロは、おもいきりほえることが、それまでなかったからです。空をむいて、かた手をあげて、がんばっているチャイロが、とってもかわいかったです。

チャイロは、おもいきりほえるのがはじめてで、ふあんだったとおもうけど、できてよかったなとおもいました。

どうしてできたのか、かんがえてみました。かさからとび出したきょうりゆうに、

「やってみて。」

と、はげまされたからかな、とおもいます。きょうりゆうは、おもいきりほえたことがないチャイロに、

「たのしいときは、空にむかつてほえるんだ。たのしいぞ。」と、おしえてくれました。

「グオオオオオーン。」

と、お手本も見せてくれました。はげまされて、チャイロ

は、ゆう気が出たんじゃないかなとおもいます。

わたしも、はげまされてゆう気が出たことがあります。おにごっこをしていてころんでしまったときです。もう出きないかもとおもったけど、ともだちに、

「大じょうぶ。まだできる。」

とはげまされて、やる気になりました。

わたしも、ともだちにゆう気をあげられるようになりたいです。なわとびができない子に、

「だいじょうぶだよ。」

といって、はげましてあげたいです。「できるよ」「がんばって」「いっしょにれんしゅうしよう」チャイロみたいに、ゆう気をもつて、いってみます。

（図書名『ガオガオきょうりゆうのよる』）

〈講評〉

しばいぬのチャイロのほえるこえではじまった文（ぶん）しようにひきこまれました。おもいきりほえたことのないチャイロが、空（そら）をむいてがんばっているすがたが、目（め）にうかぶようでした。

こねさんは、チャイロがきょうりゆうにゆう気をもらったのではないかとかんがえ、きょうりゆうのように、じぶんも友（とも）だちにゆう気をあげられるようになりたいとおもったのが、よみ手（て）につたわってきました。

こんど文（ぶん）しようにかくときは、おもったことを「」をつかわずにあらわしてみてください。

仕事に誇りをもつ

栗石町立七ツ森小学校 四年

上和野 桔 平

ぼくは、給食時間が大好きだ。自分が好きなメニューが出るとこ
うふんするし、みんなと食べる給食はとてもおいしい。こんだて表
も、見ているだけでも楽しいのだ。そんなほくだから、この
本の題名にある「給食委員」という言葉にひかれた。そのうえ、給
食委員はアイドルだというのだ。最初は、給食委員になると、アイ
ドルみたいな存在になる、という物語だと思っていた。でも、ちがつ
た。なんと、本当のアイドルが、給食委員だなんて。

主人公は、美少女モデル、人気ナンバー1の藤堂ルミ。ルミが大
好きな物。それは、ほくと同じ給食だ。その大好きな給食時間を仕
切れる給食委員会の仕事にルミが燃えていることがおもしろい。ア
イドルの仕事をひかえてまで、当番の仕事だけは、必ずやりとげる
のだ。このようなルミの一生懸命な働きのおかげで、学級の配せん
時間が大幅に短縮！しかも、「おかずやサラダを盛り付ける係は、
公平でなおかつ美的センスのある人」という細かいところまでこだ
わって考え、仕事をしているところがすごいと思う。ほくが盛り付
ける係の時は、みんなの食べる量に合わせればいいな、くらいしか
考えていなかった。ここまで、こだわりをもって、仕事をできれば
とても楽しいだろうな。ほくも、執行委員として、委員会活動に取
り組んでいる。この前は、募金の呼びかけをしたが、ルミのように
いろいろなことを考えて仕事をしていたら、もっと楽しかったらろ
うなと反省した。

でも、一生懸命仕事をがんばるルミにケチをつける人が登場した。

人気ナンバー2モデルのカオルが転校してきたのだ。カオルは、
「給食ってカロリー高いもの。全部食べたたら太っちゃうじゃない。」
なんて、言ってしまう。そして、「給食委員なんて、ダサい。」とい
う、恐ろしいばくだんのような一言も。ぼくは、さすがにカオルは
言い過ぎだろうと思った。でもアイドルもアイドルなりの悩みがあ
るのだろう。また、ご飯をしっかりと食べないから、イライラするん
だよ、とも言いたくなった。

でも、さすが、アイドルのルミは、大切なことを最後に教えてく
れた。「本当のおしゃれの基本は、よく食べ、よく寝て、よく出すの」
だそう。それから、おかわりはずかしそうにしていた子もみん
な進んでおかわりをするようになったのだ。

これは、ルミだけでなく、みんなの協力のおかげでもある。委員
会で給食キャンペーンとして、給食のすばらしさを放送で流したり、
お残しゼロ作戦をしたりしていた。みんな仕事に夢中になってやつ
ていた。とても楽しそう。これが、自分達の仕事に誇りをもつと
いうことなのかな。ほくも、委員会活動には、誇りをもって取り組
みたい。そして、ルミのように、楽しく元気に活動をしていきたい。

（図書名『給食委員はアイドル』）

〈講評〉

大好きなものが同じ「給食」だったり、どちらも委員会活動に取り組ん
だり、主人公「ルミ」との共通点を見出しながら読むことができました。
そして、委員会活動の仕事ぶりに着目してルミのよさを見つけています。
これは、委員会活動に一生懸命取り組んでいる桔平さんだからこそ強くな
に残ったのだと思います。段落の内容を上手につなげて文章を組み立てる
ことで、自分の思いをしっかりと伝えることができました。

知識という武器

宮古市立田老第一小学校 六年

伊 東 光 輝

今年の夏はとても暑かった。おかげで夏休み中のプール開放はたくさん行けたけど、いつもの夏なら、午後を過ぎると心地よい風が吹いてきたり、やませが入ってきたりするのだが、今年の夏はそれがほとんどなかった。地球温暖化という言葉は、言われ始めてかなりの年数が経っている。それに、その原因が二酸化炭素だってことも知っている。知らない人の方が少ないと思う。だから、二酸化炭素排出を減らそうとする運動は、この地球の国の多くがしていることだと思う。そんなほくらの敵とも言える二酸化炭素が、村木さんは一番のお気に入りなのだそう。ほくは、なんだか信じられない気持ちだった。

村木さんは小学生の頃から二酸化炭素に興味を持ち、その研究をスタートさせたそう。高校生の頃には既に二酸化炭素を減らすロボットまで作っている。そして、大人になった今は二酸化炭素を原料にしたガソリンに替わる燃料「そらりん」を研究しているという。そんなふうにならば、何だか二酸化炭素も敵ではないような気がする。

なぜ村木さんはこんなにも難しいことを思いつき、そして楽し気にやっているんだろうか。そんなほくらの疑問に村木さんはこんな答えをくれた。

学びは冒険すること——自分達の周りには知らないことが多く残されていて、それを解き明かすには知識という武器を使わなければならぬのだそう。そういえば、先生が前に同じようなことを

言っていた。

「学校で学ぶことって、ロールプレイングゲームで敵に勝った時、もらえるごほうびのアイテムと一緒だよ。」

でも、今のほくは今一つ、学ぶということに積極的になれないでいる。村木さんのように学ぶことがわくわくする楽しい遊びのように感じられない。なぜなのか、頭をひねりながら考えてみた結果、一つの答えにたどり着いた。まだまだほくには経験も知識も足りないからではないか、というものだ。村木さんが子どものころ、秘密基地を作ったり、自分の部屋で実験をしたりしているが、どれをとってもほくの想像を超えるほどの徹底ぶりが目を見張る。もちろん、そこには学校で学んだ知識も生かされているが、それ以上の知識がなければめられた行動になっっている。それと比べるとほくの知識という武器は、基本中の基本のものしかない。もしかしたら、本来あるべき武器で、欠けているものがあるかもしれない。でも、そんなほくに村木さんは力強いエールを送ってくれた。「君の羅針盤を見つけろ。そして帆を張り、風をうけよ。」と。ほくがほくである限り、ほくにしか出来ないことがあるはずだ。それを見つめるには色んな形での学びが必要なんだことが見えてきた。何だか心がウズウズする。今から三期スタートが待ちきれない気持ちだ。

（図書名「ほくは地球を守りたい」）

〈講 評〉

著者が教えてくれたこと、著者の言葉を素直に受け止め、自分の考えを率直に表現できています。自分の経験や思いがあるからこそ、感想文に説得力が増し、読んでいて引き付けられました。

この本を通して、自分なりの「学び」について考えることができた光輝さん。これからの生活で、光輝さんだけにしかできないことをたくさん見つけてください。応援しています。

審査を終えて

第八十回冬休み良書推薦運動読書感想文コンクールは、県内の三十校、七十四人の児童が参加してくださいました。私たちが選んだ本を手にとって読んでくれたこと、そして、読書を通して感じたことを読書感想文として書きまとめ、このコンクールに挑戦してくれたことに、感謝と喜びを感じます。今回も、どの作品もとても読み応えがありました。

以下、今回の審査で話題になったことをお伝えします。

【低学年】

低学年の部は、今回のコンクールで最も応募数が多かったです。一、二年生から一冊の本を丁寧に読んで、本の感想を原稿用紙二枚に書き上げたりする力を付けていることは、とても素晴らしいことです。

審査をしていて感心したところは、題名の付け方でした。本を読んだ感想のまとめが、文章の「終わり」のところに書かれているのですが、そのまとめの文章、つまり、自分が一番言いたいことと感想文の題名がぴったり合っているところでした。題名は、自分の作品を表す大切なもので、これから感想文を書く皆さんにも真似してほしいと思います。

また、今回は、岩手県関連図書として宮沢賢治の「どんぐりと山猫」がありました。賢治作品は、高学年の学習で扱われていますが、一、二年生の皆さんなりに賢治の作品を楽しく読んでいたところもよかったです。

【中学年】

三、四年生の部では、読書経験の積み重ねが感じられる作品が多数寄せられました。主人公の気持ちを想像するだけでなく、主人公と自分、または、主人公と他の登場人物を比較したり、主人公と対比的に書かれている他の人物に自分を重ねて読んで

りしていることが、文章から伝わってきました。そして、自分なりの視点で感想をまとめていました。同じ本でも、こんなとらえ方ができるのだなあと、作品を読ませていただいて、改めて発見できたこともありました。また、書き出しの文が大変効果的に書かれている作品も多くあり、文章に引き込まれました。三年生から、原稿用紙三枚が規定枚数になります。入賞作品を手本に、ぜひ、最後の行まで有効に使って、作品を書き上げてほしいと思います。

【高学年】

五、六年生の皆さんの作品を読むと、本を読むことの意義を考えさせられます。実体験や新聞、ニュースで知ったことの中で、心のどこかに引っかかっていることがある時、ふと出会った本が、答えのヒントをくれたり、自分を見つめるきっかけになったりすることがあります。読書を通して、自分自身を見つめたり、考えを深めたりすることができるとは、素晴らしいことです。また、本がそういう存在だと知っていることも大変素晴らしいことだと、皆さんの作品から教わりました。

高学年の皆さんが作品を書くときに気を付けてほしいことは、言葉の選び方です。自分の言葉になっていない難しい言葉遣いをする一方で、本当に思っていることが伝わりにくくなることがあります。難しい言葉でまとめるよりも、自分の気持ちに合う言葉を選んでみてください。

今回、高学年では、作者読みをしている作品がありました。同じ作者の本、同じテーマの本、シリーズの本など、読書の仕方多种多样あります。次回のコンクールでも、皆さんがどの本を手に取り、どんな作品を寄せてくれるのか楽しみにしています。

審査員 大淵 奈実

たくさんのおうぼ
ご応募、ありがとう。
次も、お友だちをさそってトライしてね。



次回予告

令和6年度夏休み良書推薦運動 第81回読書感想文コンクール募集要項

- 1 主 催 岩手県良書推進協議会
- 2 協 賛 岩手県学校生活協同組合
- 3 後 援 ・岩手県小学校長会 ・岩手県学校図書館協議会
・(一社)岩手県PTA連合会
- 4 課題図書 2024年「夏休み良書推薦運動」
学年・学団対象24冊・学年共通6冊 計30冊 (5月下旬案内開始予定)
※上記以外の図書、学団(低・中・高)ちがいの場合は、審査の対象となりません。
- 5 用紙・字数 ・1・2年生は400字詰め原稿用紙2枚以内
・3～6年生は400字詰め原稿用紙3枚以内
・1行目に題名、2行目に学校名・学年・氏名、3行目から本文
鉛筆は、B以上の濃さのもので書く。
・課題図書名は1枚目の枠外に縦書きで明記
- 6 応募作品 一人1点 (県下小学校児童)
応募作品は、オリジナルで自筆、未発表の物に限ります。
(他のコンクールとの二重応募は認めません)
・応募作品は、理由を問わず返却しません。(必要な場合はコピーをお取り下さい)
・応募作品の著作権、版権は主催者に帰属します。ただし、本人および在籍学校内での利用は妨げません。
・応募要項・課題図書名・前回までの上位入賞作品は学校生協ホームページで確認できます。
・応募された方の氏名・学校名・学年・感想文の題名・対象図書名および作品、表彰式の様子は、主催者および岩手県学校生活協同組合のホームページ、刊行物、取材報道等で公表することがあります。
- 7 応募締切 2024年9月2日(月)
- 8 応募先 〒020-0691 岩手県滝沢市土沢220-5
岩手県学校生活協同組合 企画課 学用品内
「読書感想文コンクール係」
TEL 019(687)2246 FAX 019(687)2240

